

一 次の①～⑤の [] に当てはまる言葉を語群から選び、漢字で答えなさい。

- ①五・七・五の [] 句を作った。
②体操選手がみごとに [] 返りで着地した。
③園 [] たちが手をつないで歩いている。
④食べ過ぎは体に [] だ。
⑤ [] 相を変えて飛びこんできたが、たいしたことではなかった。

《語群》

チュウ ハイ ドク ケツ ジ

二 次の①～⑤の [] に当てはまる漢字一字を自分で考えて答えなさい。

- ①冷たく固い [] でも、とけると水になる。
②うまくいったからといって、決してぬか [] びをしてはならない。
③男の子はうれしくなつて、口 [] を吹き始めた。
④「立つ [] あとを濁さず」で、試合後のロッカールームはともきれいだつた。
⑤今晩はあたたかい [] 船につかってゆつくり休もう。

三 次の文章は、精神科医の斎藤環が、「つながることと認められること」と題した講演の中で「承認の問題」について述べた部分をもとにしたものである。よく読んで、後の問いに答えなさい。

社会とのつながりにおいて人から承認されることが、ほとんどの人が持っている自信の拠り所で、承認はとても重要な意味を持つ。まだ社会的なポジションが定まっていなくても、偉大な業績を残していなくても、自信を持つことができるのなら、それは承認の力なのです。Facebookを利用したことがある人はわかんと思いますが、あの「いいね」ボタンこそが承認です。Twitterだと注1フォロワー数とかリツイート注2の数が承認に当たります。いまSNSは、人からの承認を数値化できるといふ身もふたもないものになりましたが、ある意味わかりやすい。バイト先の冷蔵庫に自分が入った写真をツイートするなど、いわゆるバカッターという現象が流行ったことがありました。全世界から馬鹿にされ炎上騒ぎになりましたが、あれをやった人たちは「バカな行為」を承認の上で、仲間内で笑いを取り承認してほしいがためにやったのでしよう。承認稼ぎが暴走すること、これがバカッターのメカニズムです。

このように逸脱したケースを見ると、いまの若い世代がどれだけ承認されることに対して飢えているか、それ以外の自信の拠り所を失っているかがよくわかる。かつては家柄や家の財産、成績がいい、スポーツができる、絵の才能があるなど、誰もが認める客観的な能力評価から自信を得ることもありましたが、いまはちがいます。能力があっても承認がすべてだからです。人に認めてもらって、ついでに「いいね」ボタン一〇〇個くらい押してもらってなんぼです。承認されない能力は価値がないのです。なぜ、このようにびつな承認の現象が起こったかは、先ほどの注3スクールカーストの話とつながっています。

スクールカーストの上位下位を決めるのはほとんど「コミュ力」の評価で、そこには友人が多いとか、異性にもてるかどうかという一元

〔注〕 1 フォロワー——ネット上に存在する特定の人物の発言(ツイート)などに注目し、その最新情報を自動的に追いかけられる状態になっている人のこと。
2 SNS——ソーシャル・ネットワーク・キングダム・サービスの略。インターネットを介して、実際に対面することなしに人間関係を構築することを目的としたサービスの総称。FacebookやTwitter、LINEなどが含まれる。
3 スクールカースト——学校のクラス内で、自然と各人をレベル分けし、上下関係として固定したもの。インドに古来伝わる階級制度である「カースト」をもとにした造語。

化された評価軸しか存在しません。そうした評価軸になじみすぎた人は、ほんとうの評価軸となるべき個人の才能ではなく、いびつな承認欲求を持ちやすい。たとえば、あの人は無口だけれども絵がすごく上手いとか、将棋の才能があるだとか、他の評価軸で尊敬することができれば救いがあるのですが、対人評価が一元化しているとスクールカーストのような全体主義を受け入れやすくなるのです。本来、対人評価は多様であればあるほど面白いのですが、残念ながらいまの教室からは多様性が失われつつあるのではないのでしょうか。

また、承認は誰からされても良い訳ではないようです。承認にもいくつかの段階があつて、たとえば思春期を過ぎて家族から承認されてもあまり嬉しくない。家族が自分を認めてくれるのはある意味当たり前なので、どちらかと言うと仲間内で承認されるほうが嬉しい。もつと言え、より親密な関係の人、たとえば親友や仲の良い友達からの承認の価値のほうが高く、さらに異性からの承認はもつとも価値が高いようです。

もちろん本来は人間の価値は承認のみでは決まりません。ところが人は親密な関係の人や異性からの承認がより価値のあるものだという考えにしばしば囚われます。このような考え方を中学や高校で身につけると、その人の人生に長く影を落とします。ですから、私が今日、場合によってはみなさんにとって耳の痛い話をしているのは、みなさんがいま抱えている価値観はほんとうに正しいのか、ということをお願いかけているのです。それはひょっとすると、現代の日本の教室空間でしか通用しない、狭い価値観かもしれない。その可能性を考えてみて欲しいのです。

(中略)

みなさんは「自己愛」ということばにどんな印象を持ちますか？ このことばは意外なほど評判が悪い。「自己愛的な人」というと「自己中心的な人」と混同しがちですが、じつはちがいます。自己愛とは自分という存在を温存していこう、サバイバルしていこうという欲望のことを呼びます。とすればみなさん全員、自己愛を持っていますよね。ある精神分析家は「人間の自己愛は一生・生涯成長し続ける」と言っ

《注》 4 精神分析家——主に精神分析という理論を用いて活動する医師や心理士のこと。

ています。私はこれを真理だと思う。成長や成熟は大人になったら終わるのではなく、特に自己愛は一生・成熟・成長が続いていくのです。

自己愛を成長させるのは「他者」です。あとで詳しく説明しますから覚えておいてください。自分が親密に感じている「他者」が自己愛に成長のエネルギーを補充してくれる、この成長のメカニズムをよくイメージしてください。イメージを持っていないと自分が成長・成熟する可能性がないといった間違つた考えに陥ることがあります。とくに中学、高校、大学と進むにつれ若い人はしばしば自己嫌悪や自分には価値がない、そんな自分が嫌いであるという意識に囚われてしまうことがあります。

自己愛には二種類あつて、ひとつはプライド、もうひとつは自信です。② 自分が嫌いという人はしばしば、プライドは高いけど自信がない。精神医学的に、そうした人は非常に困つた意識状態にあると言えます。なぜなら、その人は自分が他人から見えてどんな人間か、また自分がいかにだめな人間であるかという苦しい自問自答を延々と続けなければならないからです。自信とプライドとのギャップはできるだけ縮めておくに越したことはない。

ギャップに苦しむ人には、より高い社会的なポジションに就くことで自信が回復すると思っている人がたいへん多いのですが、これは誤りです。高い社会的地位を達成したとしても、自信がそれに追いつかないという現象がしばしば起こる。なぜか？ 自信の拠り所が承認だからです。ただし、他者からの承認を得るということは、スクールカーストにおいて上位に位置することではありません。先ほどの「人間の自己愛は一生・成長し続ける」と言つた精神分析家は、思春期・青年期において、大人でも同年代の友達でも彼氏や彼女でもいい、大事な他者との関係が長く続いていくことが一番価値のある承認だという意味のことを言っています。私もまったく同感です。

自信を高めるには、他者との持続的で安定的で良好な関係が重要です。一人や二人でもいい、長持ちする関係を保つことが非常に大きな意味を持ちます。③ 自己愛とは、そうやって鍛えられてゆくものです。

ここまでが現状分析の話です。では、みなさんにこれからどうしてほしいかを少し話したいと思います。

まず、自分が置かれている「状況」を自覚してください。それを認識しないと空気やカーストというものに流されてしまう可能性が
あります。よく認識を深め、知恵や趣味で武装することで、不本意な状況に流されるのを防いでください。

『学ぶということ』(続・中学生からの大学講義)1』所収 斎藤環「つながることと認められること」より。

— 5 —

問一——線部②〈自分が嫌いという人はしばしば、プライドは高いけど自信がない〉とありますが、〈自分が嫌いという人〉に〈自信がない〉のは、なぜですか。25字以上35字以内で答えなさい。

問四 ①線部④〈承認を得るより人を承認することから始めてください〉とありますが、〈いまの若い世代〉に向けた、こうした一見遠回りな提案は、筆者のどのような考えによるものですか。本文全体の内容を踏まえ、80字以上90字以内で答えなさい。

20

四 次の文章を読んで後の問いに答えなさい

小学5年生の「ぼく」(野崎翔太)は、将棋を始めてから負けたことがなかったが、半年ほど経ち小学2年生の山沢貴司との対局で初めて負けた。その悔しさから、しっかりと棋譜の研究をして山沢君への対策を練ってきた。

朝霞こども将棋教室では、最初の30分はクラス別に講義がおこなわれる。ぼくは初段になったので、今日から山沢君たちと同じ、一番上のクラスだ。ところが、有段者で来ているのはぼくと山沢君だけだった。

「そうなんだ。みんな、かぜをひいたり、法事だったりだね」

講義のあとは、ぼくと山沢君が対戦し、2局目は有賀先生がぼくたち二人を相手に二面指しをするという。前にも、先生が3人の生徒と同時に対局するところを見たが、手を読む速さに驚いた。プロが本気になったらどれほど強いのか、ぼくは想像もつかなかった。

「前回と同じ対局になってしまうけど、それでもいいかな？ 先手は野崎君で」

「はい」

ぼくは自分を奮い立たせるように答えたが、山沢君はつまらなそうだった。

(よし。①目にももの見せてやる)

ぼくは椅子にすわり、盤に駒を並べていった。

「おねがいます」

二人が同時に礼をした。山沢君が対局時計のボタンを押すと、ぼくはすぐに角道を開けた。山沢君もノータ임で角道を開けた。続いて、ぼくが飛車先の歩を突くと、山沢君は少し考えてから、同じく飛車先の歩を突いた。どうせまた振り飛車でくると思っていたはずだから、居飛車を選んだぼくに合わせようとしているのだ。

〈注〉1 棋譜——将棋や碁の対局での手順を記録したもの。

(よし、そうこなくちやな)

ぼくは飛車先の歩を突き、山沢君も飛車先の歩を突いた。ぼくが飛車先の歩を伸ばせば、山沢君も飛車先の歩を伸ばす。この流れなら、まずまちがいない横歩取りになる。あとは、研究の成果と、自分の読みを信じて、一手一手を力強く指すのみ。

序盤から大駒を切り合う激しい展開で、80手を越えたと双方の玉が露出して、どこからでも王手がかかるようになった。しかし、どちらにも決め手がない。ぼくも山沢君もとくに持ち時間はつかいきり、ますます難しくなっていく局面を一手30秒以内で指し続ける。壁の時計に目をやる暇などないが、たぶん40分くらい経っているのではないだろうか。持ち時間が10分の将棋は30分あれば終わるから、ぼくはこんなに長い将棋を指したことはなかった。これでは有賀先生との2局目を指す時間がなくなってしまう。

「そのまま、最後まで指しなさい」

有賀先生が言つて、そうこなくちやと、ぼくは気合いが入った。かなり疲れていたが、絶対に負けるわけにはいかない。山沢君だって、そう思っているはずだ。

(勝ちをさせるな。相手玉を詰ますことよりも、自玉が詰まされないようにすることを第一に考える)

細心の注意を払って指していくうちに、形勢がぼくに傾いてきた。ただし、頭が疲れすぎていて、目がチカチカする。指がふるえて、駒をまっすぐにおけない。

「残念だけど、今日はここまでにしよう」

ぼくに手番がまわってきたところで、有賀先生が対局時計を止めた。

「もうすぐ3時だからね」

そう言われて壁の時計を見ると、短針は「3」を指し、長針が「12」にかかっている。40分どころか、1時間半も対局していたのだ。

ぼくは盤面に視線を戻した。ぼくの玉はすでに相手陣に入っていて、詰ませられることはない。山沢君も入玉をねらっているが、10手

あれば詰ませられそうな気がする。ただし手順がはつきり見えているわけではなかった。

「すごい勝負だったね。ぼくが将棋教室を始めてから一番の熱戦だった」

プロ五段の有賀先生から最高の賛辞注2をもらったが、ぼくは詰み筋すじを懸命けんめいに探し続けた。

「馬引きからの7手詰めだよ」

山沢君が悔しそうに言って、ぼくの馬を動かした。

「えっ？」

まさか山沢君が話しかけてくるとは思わなかったので、ぼくはうまく返事ができなかった。

「こうして、こうなって」

詰め将棋しやうぎをするように、山沢君が盤上ばんじやうの駒を動かしていく。

「ほら、これで詰めだよ」

（なるほど、そのとおりだ）

頭のなかで答えながら、ぼくはあらためてメガネをかけた小学2年生の実力に感心していた。

「プロ同士の対局では、時間切れ引き分けなんてない。それは研修会注3でも、奨励会しょうれいかいでも同じで、将棋の対局はかならず決着がつく。でも、

ここは、小中学生むけのことも将棋教室だからね。今日の野崎君と山沢君の対局は引き分けとします」

有賀先生のことばに、ぼくはうなずいた。

「さあ、二人とも礼をして」

「ありがとうございます」

山沢君とぼくは同時に頭をさげた。そして顔をあげたとき、山沢君のうしろにぼくの両親が立っていた。

〈注〉2 賛辞——ほめたたえる言葉。

3 奨励会——プロ棋士を目指す者が所属する研修機関。

「えっ、あれっ。ああ、そうか」

ぼくは母が3時前に来る約束になっていたことを思いだったが、まさか父まで来てくれるとは思ってもみなかった。もうBコースの生徒たちが部屋に入ってきていたので、ぼくは急いで駒を箱にしまった。

「みなさん、ちよつと注目。これから野崎君に認定書にんていしよを交付します」

ふつうは教室が始まる時にするのだが、有賀先生はぼくの両親に合わせてくれたのだ。

「野崎翔太殿どの。あなたを、朝霞あさかこども将棋教室初段に認定にんていします」

みんなの前で賞状をもらうなんて、生まれて初めてだ。そのあと有賀先生の奥さんおくが賞状を持ったぼくと有賀先生のツーショット写真を撮とってくれた。両親が入った4人での写真も撮とってくれた。

「野崎さん、ちよつといいですか。翔太君も」

有賀先生に手招きされて、ぼくと両親は廊下ろうかに出た。

「もう少し、むこうで話しましょうか」

どんな用件なのかと心配になりながら、ぼくは先生についていった。

「翔太君ですが、成長のスピードが著いしいし、とてもまじめです。今日の一局も、じつにすばらしかった」

有賀先生によると、山沢君は小学生低学年の部で埼玉県のベスト4に入るほどの実力者なのだという。来年には研修会に入り、奨励会試験の合格、さらにはプロの棋士きしになることを目標にしているとのことだった。

「小学5年生の5月でアマチュア初段というのは、正直に言えば、プロを目ざすには遅おそすぎます。しかし野崎君には伸びしろが相当あると思いますので、親御さんおやのほうでも、これまで以上に応援おうえんしてあげてください」

そう言うと、有賀先生は足早に廊下を戻っていった。

まさか、ここまで認めてもらっているとは思わなかったので、ぼくは呆然^②としていた。将棋界^{しょうぎかい}のことをなにも知らない父と母はキツネにつままれたような顔をしている。二人とも、すぐに仕事に戻らなければならないというので、詳しいことは今晚話^{こんばんわ}すことにした。

103号室に戻り、カバンを持って出入り口にむかうと、山沢君が立っていた。ぼくより20センチは小さくて、腕^{うで}も脚^{あし}もまるきり細いのに、負けん気の強そうな顔でこつちを見ている。

「つぎの対局は負けないよ。絶対に勝ってやる」

「うん、また指そう。そして、一緒に強^{いっしょ}くなるうよ」

ぼくが言うと、山沢君がメガネの奥の目をつりあげた。

「なに言ってるんだよ。将棋^③では、自分以外はみんな敵なんだ」

小学2年生らしいムキになった態度がおかしかったし、「自分以外はみんな敵だ」と、ぼくだって思っていた。

「たしかに対局中は敵だけど、盤^{はな}を離れたら、同じ将棋教室に通うライバルでいいんじゃないかな。ぼくは初段になったばかりだから、三段になろうとしているきみをライバルっていうのは、おこがましいけど」

ぼくの心はずんでいた。個人競技である将棋にチームメイトはいないが、ライバルはきつといくらでもあらわれる。勝ったり負けたりをくりかえしながら、一緒に強くなっていけばいい。

「そういえば、有賀先生のおとうさんが教えた大辻^{おおつじ}彦^{ひこ}さんっていうひとが、関西の奨励会^{しょうれいかい}でがんばっているんだってね。大辻さんが先にプロになって、きみとぼくもプロになって、いつかプロ同士で対局できたら、すごいよね」

奨励会試験に合格するにはアマ四段の実力が必要とされる。それに試験では奨励会員との対局で五分以上の星をあげなければならない。合格して奨励会に入っても、四段Ⅱプロになれるのは20パーセント以下だという。

それがどれほど困難なことか、正直なところ、ぼくにはよくわかっていなかった。でも、どれほど苦しい道でも、絶対にやりぬいてみせる。

「このあと、となりの図書館で棋譜^④をつけるんだ。今日の、引き分けだった対局の」

ぼくが言うと、山沢君の表情がほんの少しやわらかくなった。

「それじゃあ、またね」

三つも年下のライバルに言うと、ぼくはかけ足で図書館にむかった。^⑤

(佐川光晴『駒音高く』より。)

問一——線部①へ目にももの見せてやる〜とありますが、この時の〈ぼく〉はどのような気持ちですか。解答欄の「〜という気持ち。」に

つながるように20字以上30字以内で答えなさい。

問二——線部②〈ぼくは呆然としていた〉とありますが、〈ぼく〉はどうして呆然としていたのですか。30字以上40字以内で答えなさい。

問三——線部③〈将棋では、自分以外はみんな敵なんだ〉から——線部④〈山沢君の表情がほんの少しやわらかくなった〉までで、〈山沢君〉にはある気づきが芽生えたと思われれます。〈山沢君〉の心に芽生えた気づきとは何ですか。気づいた理由と合わせて45字以上55字以内で答えなさい。

問四

——線部⑤〈ぼくはかけ足で図書館にむかったとありますが、この時の〈ぼく〉はどのような気持ちですか。〈山沢君〉との対局前までの様子と、〈かけ足〉となったきっかけも合わせて80字以上90字以内で答えなさい。

下書き用（使っても使わなくてもかまいません）

20

国語試問解答用紙

令和二年
中学入試
1 回

2

受験番号

一

二

三

問一

問二

問二

問三

問三

問四

問四

四

問一

問一

問二

問二

問三

問三

問四

問四

問四

問四

①

①

②

②

③

③

④

④

⑤

⑤

25

25

25

90

30

30

55

90

15

35

35

80

20

40

80

という気持ち。

室号

受験番号

氏名

受験番号は解答用紙の右のらんにも記入しなさい。